

令和4年度

柿原小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 論理的思考力・表現力の育成と言語活動の充実
- 主体性と継続力・学び合う力を育む学習活動(授業)の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長:松本 珠実 教頭:赤澤 泰志
筒井 美帆		教務主任:原田 理恵 研修主任:佐光 祥子 特別支援教育コーディネーター:原田 理恵

校長

松本 珠実

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読みや整数の四則計算などの基礎的・基本的な知識・技能が身についている児童が多い。 ●漢字や九九などの基礎的・基本的な知識・技能の定着の差が大きいのが課題である。	・整数の四則計算を確実に行うことができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読むことができる。	・3年生以上の学年で、一人一冊(個人用)の辞書を持ち、常に活用できるようにする。 ・習熟度別のプリントを用意したり、漢字や計算の小テストを実施したりする。 ・タブレットドリルを活用し、基礎的・基本的な練習問題を繰り返し行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話形やホワイトボードをもとに、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 ●資料や他者の意見から状況を想像したり、新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・話し合い活動を通して思考を深め、問題解決に取り組むことができる。 ・客観的な根拠や理由を用いて、自分の考えを説明したり、文章に書き表したりすることができる。	・朝の会や帰りの会におけるスピーチの時間に、質問や感想を言う時間を設ける。 ・話し方のモデルを示しながら根拠をもとに意見を発表するように日頃から指導する。 ・タブレットやホワイトボードを効果的に活用し、友達と意見交流する機会を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に向き合い、課題にも一生懸命取り組むことができる。 ●家庭学習や読書、苦手な学習内容の克服等に、計画的、継続的に取り組むことに課題がある。	・家庭の事情や発達段階に応じた家庭学習や読書の習慣を身に付けることができる。 ・苦手な学習にも最後まで粘り強く取り組むことができる。	・学習のめあてや振り返りなど、自分の学びがわかるノート指導を徹底する。 ・教材に関連した本の紹介や週末読書の実施を積極的に行う。 ・家庭学習の取組状況について1ヶ月に1週間チェック表で振り返る機会を設ける。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

